

防災分野における地理空間情報の利活用推進のための基盤整備に係る ワーキンググループの活動報告・今後の活動内容

1. ワーキンググループの活動報告

本ワーキンググループは、防災分野での地理空間情報の利活用推進に資することを目的に、産学官から広く構成員を募り、災害リスク情報等の規格化及び利活用推進を主なテーマとした意見交換等を行った。具体的な活動内容は以下のとおりである。

① 第1回 平成20年12月16日（火）

- ・ 防災分野における地理空間情報の利活用推進のための基盤整備ワーキンググループについて
- ・ 災害リスク情報の利活用方法検討作業のアプローチ（案）について
- ・ 災害リスク情報の体系化作業について — 既存の災害リスク情報体系をベースにした作業手順イメージ（例） —
- ・ 既存の取組等に関する情報提供
 - 「防災情報の流通において、官はどこまでやればよいか？（頑張りすぎず、全体の円滑化を）」（東京大学 柴崎亮介教授）
 - 「国民一人一人を防災行動に誘導するための地理空間情報の活用」（名古屋大学 福和伸夫教授）
 - 「災害リスク情報プラットフォームの研究開発について」（独）防災科学技術研究所 藤原広行 プロジェクトディレクター）
 - 「河川局における地名辞典の整備状況」（国土交通省河川局河川計画課 安原達 企画専門官）
 - 「気象情報をさらに有効に活用して頂くために ～XML形式による提供に向けて～」（気象庁総務部企画課 山腰裕一企画係長）
- ・ 本年度の防災WGの活動の範囲について（案）

② 第2回 平成21年2月9日（月）

- ・ これまでの検討状況と今後の進め方について

これまでの検討状況と今後の進め方について

EUにおける参考となる取り組み

ターゲットとする利活用像について

既往又は策定中の関連規格類の整理について ～データ規格の検討を進める上での基礎となる資料の作成例（未定版）～

・話題提供

「LCDMデータ流通基盤の概要」(LCDM推進フォーラム 礒部猛也事務局長)

「地方公共団体間での防災情報共有の実現に向けた取組み」((財)全国地域情報化推進協会 柴崎健一郎企画部担当部長)

「河川関係のXML規格作成とその利用」((財)河川情報センター 小川鶴蔵審議役)

③ 第3回 平成21年3月13日(金)

・防災WGの今後の進め方等について

検討経過と今後の進め方について

事務局からの話題提供 今週発生している米国の洪水の際の民間事業者による情報提供(例)

災害リスク情報の規格化に係る今後の検討内容と検討体制(素案)

ターゲットとする利活用像(ユースケース)の要件案について

・話題提供

「ITSの標準化と防災情報提供」(東京大学 山田晴利特任教授)

「地域の安心・安全情報基盤『安心・安全公共commons』の実現に向けて」(総務省情報流通行政局地域通信振興課 馬宮和人課長補佐)

「情報の規格化・GIS化は何の役に立つのか?」(時事通信社防災リスクマネジメントWeb 中川和之編集長)

「高校授業の防災教育における地理情報の活用事例紹介」(人と防災未来センター 宇田川真之研究員)

2. 今後の活動内容について

今後は、引き続き会合を開催し、防災分野での地理空間情報の活用に関する情報共有や意見交換を行うほか、これまでの意見交換の結果も踏まえて、災害リスク情報の規格化及び利活用推進について具体的な作業に取り組む予定としている。